

ドライバーの運転意識とヒヤリ・ハット体験との関連に関する調査研究（Ⅱ）（平成7年度）

交通事故の発生する裏には、事故一步手前のヒヤリ・ハット体験が隠されており、ヒヤリ・ハット体験を無くすることが事故防止のキーポイントとなっている。このため、高齢運転者、若年運転者、女性運転者を対象に、ドライバーの運転意識とヒヤリ・ハット体験との関連について3カ年計画で調査することとした。今年度は若年運転者の運転意識、ヒヤリ・ハット体験した場面及びこれらの相互の関連について調査し、解析した。

- ① 運転免許を保有する24歳以下の男女5,000名（回答数1,819名）にアンケートを行った。運転意識に関する22の設問で肯定者比率が多い5項目は「運転に危険はつきものである」（92.5%）、「どんな運転者でも、事故になりかけてヒヤリとすることはよくある」（85.2%）、「前の車もたもたしていると、腹がたつ」（70.9%）、「運転したいが楽しい」（64.9%）、「歩行者や自転車をじゃまに思う」（59.0%）であった。男性の肯定者比率が女性に比べて大きいのは「脇見運転をすることがある」、「10km/時程度のスピードオーバーであれば危険はない」などで、逆に女性の肯定者比率が高いのは「歩行者や自転車をじゃまに思う」、「前の車についていけば安心して右左折できる」などである。
- ② これらの設問に因子分析を適用して、攻撃的傾向、運転への価値傾斜傾向、漫然・脇見運転傾向、依存的傾向、違反容認傾向、危険容認傾向の6因子に要約すると、それぞれの因子傾向を強く持つ運転者の比率は、危険容認傾向を除いて、いずれも女性より男性のほうが多い。また、危険容認傾向を除き、それぞれの因子傾向が強いグループほど事故・違反の経験者比率が高い。
- ③ 過去約1年間に事故になりかけてヒヤリ・ハットした体験の有無についての15項目の設問では、追突に関連するヒヤリ・ハット体験が多く、また、いずれの項目でも女性より男性の体験比率が高い。なお、いずれかのヒヤリ・ハット体験のある者の比率は90.7%であった。
- ④ ヒヤリ・ハットの原因が自分にあったとする比率が高いヒヤリ・ハット項目は、「追突しそうになった」「バックをされていて事故になりそうになった」「カーブなどで対向車線にはみだした」「車線変更時に他車と接触しそうになった」などである。ヒヤリ・ハット体験以降、安全運転に心がけるよう運転が「大きく変わった」との回答は29.5%、「多少は変わった」は65.4%であった。
- ⑤ 事故・違反の有無別にヒヤリ・ハット体験者比率をみると、ヒヤリ・ハット体験がある運転者に事故・違反が多い（図）。また、ヒヤリ・ハット体験にもっとも関連が強いのは、漫然・脇見運転傾向であり、次いで攻撃的傾向、依存的傾向、違反容認傾向、危険容認傾向の順にヒヤリ・ハット体験との関連が強い。

図 事故・違反の有無別ヒヤリ・ハット経験の経験者比率

